

2017年3月2日（木）

現存する家譜から推察

西表島の西部北海岸の1500年「オヤケアカハチ・ホンカワラの乱」以後から1523年までの八重山頭職時代、八重山蔵元時代（1524～1897年）の西表島西部の北海岸の鬚川村や鳩間島・鳩間村（西表首里大屋子、鬚川与人、鳩間与人）統治について現存する家譜から推察した。

琉球王国時代 西表島西部北海岸の 鬚川村や鳩間島・鳩間村の統治

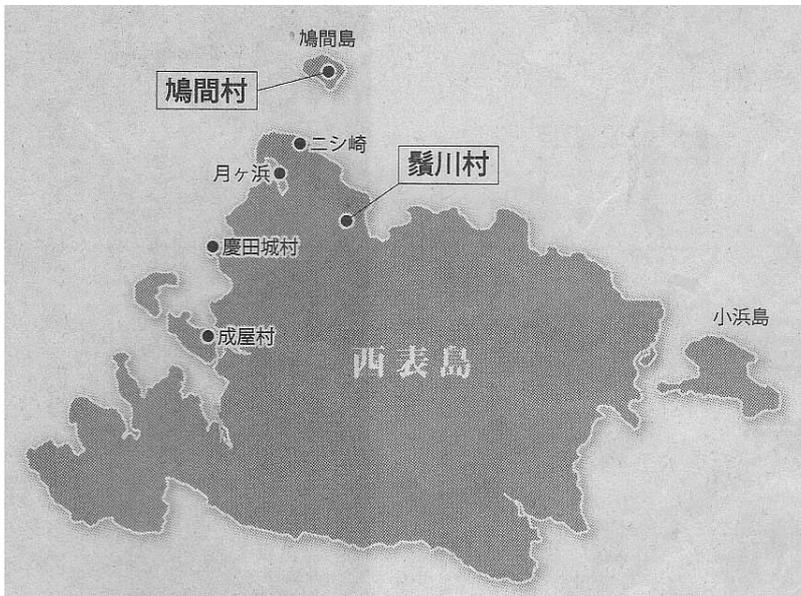
大瀨永亘（先島文化研究所主宰）

郷土史家牧野清氏の『新八重山歴史』（自費出版／昭和47・1972年）に鳩間島（ハトゥマ）は鳩がたくさん棲んでいたところから、鳩の島＝ハトゥマという名が生まれたといわれる。西表島の船浦湾内にある鳩離（ハトゥパナリ）も、同様の趣旨の命名であるらしい。また、鳩間村は伝説によれば、西表島のヒナイ村から、

六名の移住者によって建てられたといわれる。

1703年黒島住民150人を移して、人口の補充を行った。

明治42（1909）年には上原から十戸75名が移住している。現在人口減少、過疎化に傾向にある。」と述べている。琉球王国時代



（1500年オヤケアカハチ・ホンカワラの乱以後）の西表島西部の北海岸・鬚川村、鳩間島の鳩間村の統治は1628年まで兼務職の八重山頭や西表首里大屋子によって行われ、琉球王国の朝貢・進貢物産（先島物産）の調達係に就いていたと思われる。鬚川村や鳩間村の統治について「1500年オヤケアカハチ・ホンカワラの乱」から明治三十（1897）年までの継承は現存する家譜を精査し歴史逆照し時系列的に列記したら大きく四つに分けることができる。

- (1) 1500年から1523年まで「1500年オヤケアカハチ・ホンカワラの乱」の鎮定後に論功行賞で八重山頭になった宮古の忠導氏正統の仲宗根豊見親玄雅（ナカソネトウユミヤ、童名：空広、天順年間＝1457～64年生まれから1522～66年＝嘉靖年間卒）一族の二男・忠導氏2世八重山豊見親玄数（童名：祭金、成化年間＝1465～87年生まれから嘉靖年間＝1522～66年に卒）、1504年後任の八重山頭に三男の知利（理）真良豊見親（チリマラトウユミヤ、八重山頭、宮金氏正統寛忠、童名・生寿不明）が就いている。※『忠導氏系図家譜正統』。

『球陽』に名田大知（長栄姓大宗信保）の娘が知理真良豊見親（寛忠）に嫁いでいる。名田大知（長田大翁主）と仲宗根豊見親は、血族の固い契りを結んでいる。また、長栄氏3世信有や山陽姓大宗長光（1584～1661年卒）の童名が祖良広（空広・ソラビー）であり、そのことから長栄氏3世信有や山陽姓大宗長光の祖父美良底首里大屋子（家譜に童名は不詳で3世）は、宮古の仲宗根豊見親玄雅からあやかり名の童名の祖良広を受け継いでいる。



- (2) 八重山蔵元時代（1524年～1897年）の西表島北海岸の鬚川村や鳩間島・鳩間村を兼務職の西表首里大屋子が統治していた。

- ①1524年（家譜では尚真王世代の嘉靖年間＝1522～26年）任の錦芳姓大宗用緒（童名：真茂能、生日忌日寿俱不伝）が初代の西表首里大屋子に就いている。
ちなみに1524年竹富島の西塘（童名：石戸、生寿不明）は竹富頭に命じられ、「八重山蔵元」を創建している。以上のことから西表島の慶来慶田城（ケライケダグスク）が1522年与那国島「鬼虎征伐」に当主の仲宗根豊見親玄雅から依頼を受け、琉球王国へ忠誠誓って嫡子の2世用庶（童名：石山＝石戸、生日忌日寿俱不伝）や竹富島の西塘と一緒に参戦したと思われ、論功行賞で家譜に尚真王世代嘉靖年間（1522～26年）初代の父用緒が西表首里大屋子、その嫡子2世用庶は初代与那

国与人に就いている。※『錦芳姓大宗用緒』家譜。



- ②1556～66年（尚元王世代嘉靖年間）任の錦芳氏3世西表首里大屋子用尊（童名：真茂能、1527～99年卒）が2代の西表首里大屋子に就いている。※『錦芳姓大宗用緒』家譜。
- ③尚元王世代嘉靖年間（1556～66年）任に錦芳氏3世西表首里大屋子用信（童名：満能、歴年久遠生忌月日不詳）が3代の西表首里大屋子に就いている。

ちなみに錦芳氏3世用信は西表島西部の慶田城村から石垣島の平川下底若（ピィサガースムスクハカ）の海岸より桃林寺の後方に島移り（移住）をしている。錦芳氏3世用信は祖父用緒のあやかり名である童名



(当て字の違う) がマンノウ (真茂能=満能) を継承している。※『錦芳氏3世用信小宗』家譜。

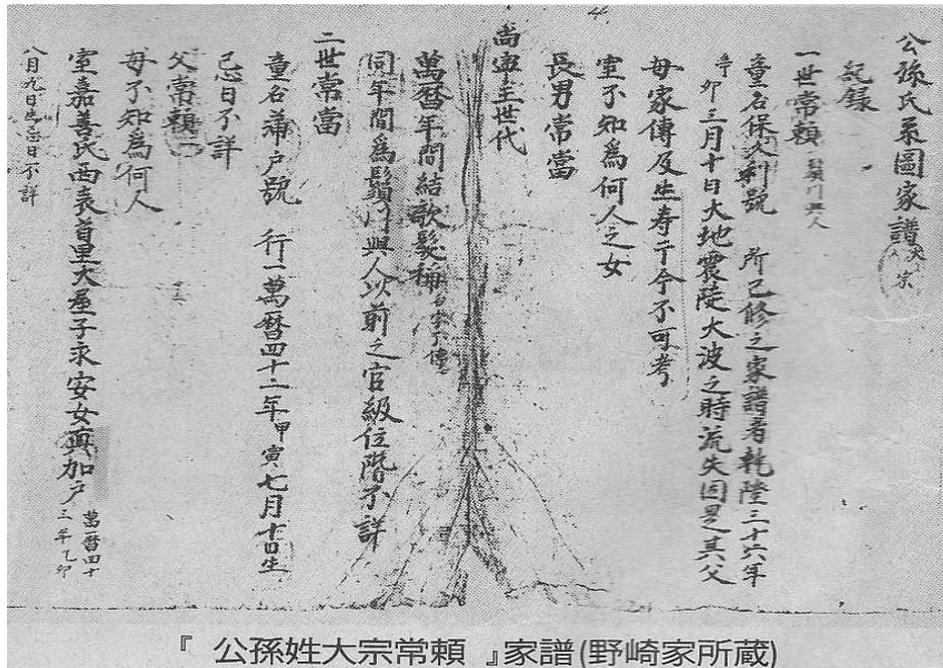
④尚寧王世代万暦年間 (1589～1619年)任に錦芳氏4世西表首里大屋子用孫 (童名:石山=石戸、1560～1610年卒) が4代の西表首里大屋子に就いている。※『錦芳姓大宗用緒』家譜。初代の1524年任の西表島西部出自の錦芳姓大宗用緒から4代の1610年 (家譜では尚寧王世代万暦年間=1589～1619年任と記載されている。) の錦芳氏4世用孫らの錦芳姓一門 (一族) で西表島西部を兼務職の西表首里大屋子に就いて統治している。

八重山蔵元史料『八重山島年来記』崇禎二己巳 (1629) 年項に「一、大浜間切 内 鳩間村」と記載されている。また、順治八辛卯 (1651) 年の項にも「一、八重山の人数は、5,235人。内 鳩間鬚川・二か村人数 70人」と記載されている。

- (3) 1611年 (家譜には1589～1619年=万暦年間任と記載されている。) から1702年までは鬚川村や鳩間村を鬚川与人が統治していた。1609年薩摩藩に琉球侵略以後の八重山蔵元時代の西表島の北海岸・鳩間島の統治した鬚川 (ヒナイ) 村・鳩間村 (ハトゥマ) の役人・与人の最初は任勤務が不明であるが単独職で鬚川与人の名で統治している。

- ①1589～1619年 (尚寧王世代万暦年間) 任の鬚川与人該当者に公孫姓大宗鬚川与人常頼 (童名:保久利、生寿于今不可考) が鬚川与人に就いている。『公孫氏系図家譜大宗』の「一世常頼」の項に「尚寧王世代 (1589～1620年)、万暦年間 (1573～1619年) にカタカシラを結うが名字不伝。同年間に鬚川与人となる。以前の官級・位階は不詳」と記されている。公孫姓大宗常頼の嫡子は公孫氏2世鬚川仁也常富 (童名:蒲戸、1614年生まれ～忌日不詳) である。公孫姓大宗常頼の同一世代に嫡子鬚川仁也常富の妻の父である嘉善氏5世西表首里大屋子永安 (童名:茂志美、1587～1674年卒) がいる。

- ②鬚川与人職任～1656年まで鬚川与人は不明であるが家譜から該当者に
字新川・慶田盛村居住の明宇底獅子嘉殿（生不明～1500年卒）の二
代で三男の還宝与人遠戸（生寿不明）の曾孫である5代の大史氏3世鬚
川与人高起（童名：山戸、生年享年月日不詳～1656年卒）が鬚川与
人に就いている。※『大史姓大宗高教』家譜。大史氏3世高起の二女那
部山（鍋山、1619～96年卒）が山陽氏2世宮良親雲上長重（童
名：保久利思、1617～93年卒）に嫁いでいる。大史氏3世高起の
同世代に娘・二女那部山の義父・山陽姓大宗宮良親雲上長光（童名：祖
良広、1584～1661年卒） がいる。



『公孫姓大宗常頼』家譜(野崎家所蔵)

- ③1657～1702年まで鬚川与人職任勤務不明だけど家譜から該当者に
恵倫姓（大宗）鬚川与人稠廣（童名・生寿不明）がいる。※『山陽氏3世
長孝小宗』家譜に字新川の慶田盛村住民の山陽氏五世保里親雲上(保里与
人)長敞（童名：山戸、1689～1746年卒）の三男稠基。母次女同
断恵倫氏鬚川与人稠廣依無子嗣子呈請嗣子継彼家統と記されている。三
男稠基の生れは姉四女部奈利（1718～65年卒）、妹の五女宇那利
（1723～46年卒）から推察して1720年ころに生まれたと思われ
る。以上のことから、恵倫氏鬚川与人稠廣が1702年までに最後の
鬚川与人に就いていたと思われる。



(4) 1703年から「八重山蔵元」廃庁1897年まで鳩間与人が統治していた。八重山蔵元史料『八重山島年来記』の康熙四十二癸未（1703）の項に「一、鳩間村は、古見村役人の管轄であつたが、黒島・保里二か村から150人を寄百姓して地頭持ちの村となった」と記されている。

①初代の鳩間与人は1703～1708年まで勤務の益茂氏4世波照間首里大屋子里倉（童名：満慶山、1668～1723年卒）である。

その後1709年与那国与人任、1710年波照間首里大屋子に就いている。※『益茂姓大宗里安』家譜。

②1709～1722年まで鳩間与人勤務者は不明。

③1723～1737年まで鳩間与人勤務の毛裔氏4世鳩間与人安政（童名：蒲戸、1671～1737年卒）が就いている。※『毛裔氏3世安維小宗』家譜。

④1738～1754年までの鳩間与人が不明。勤務不明の該当者に家譜から梅公氏4世長濱仁也・鳩間与人孫盛（童名：祖良広、1710年生れ～不詳）がいる。※『梅公氏3世孫長小宗』家譜。我那覇孫著『祖記並同系図（梅公姓系図家譜）』（竹原家文書・自家作成／1881年）には梅公氏4世鳩間与人孫盛は梅公氏3世慶田城筑久登之孫長（童名：石戸能、1679～1746年卒）の4男と記載されている。

- ⑤1755～68年まで鳩間与人勤務の伯言氏4世宮良仁也・石垣親雲上政治（童名：嘉那、1723～73年卒）が就いている。※『伯言姓大宗政通』家譜。鳩間与人後に1769年野底与人任、1771年石垣頭に就いている。
- ⑥1769～84年まで勤務の鳩間与人者は不明。
- ⑦1785～93年まで勤務の山陽氏7世湧川仁也・黒島首里大屋子長常（童名：真市、1750～99年卒）がいる。※『山陽氏6世長網小宗』家譜。鳩間与人後に1794年黒島首里大屋子に就いている。ちなみに湧川仁也長常が黒島首里大屋子勤務時代に「昔トゥバーラマ節」を作曲したと伝えられている。
- ⑧1794～1809年まで鳩間与人勤務は松茂氏7世与那国与人當善（童名：樽、1738～1812年卒）である。※『松茂氏7世當善小宗』家譜。その後1810年与那国与人に任じられている。
- ⑨1810～18年まで鳩間与人勤務不明。しかし、家譜から該当者に梅公氏5世鳩間与人孫廟（童名：真山戸、1749～1818年卒）がいる。※『梅公氏5世孫廟小宗』家譜。牧野孫宣『梅公姓系図家譜小宗—第三世孫格系譜』（自費出版／1987年）を参照。屋号ベーカローヤーとは初代の鳩間与人孫廟がいつも青鳩の色の着物を着ていたので青鳩の家（ベーカローヤー）と呼ぶようになった。
- ⑩1819年の鳩間与人勤務者が不明。
- ⑪1820～30年まで鳩間与人勤務の憲章氏9世亀川仁也・波照間首里大屋子英匡（童名：思次良、1776～1839年卒）がいる。鳩間与人後に1831年黒島首里大屋子任、1832年与那国首里大屋子に再任、1834年



波照間首里大屋子に就いている。※『憲章氏7世英光小宗』家譜。

- ⑫1830～1834年までの4年間勤務長栄氏13世鳩間与人真昌（童名那、1784～1834年卒）が鳩間与人に就いている。
※『長栄氏10世真邦小宗』家譜。
- ⑬1835年鳩間与人勤務者は不明。1836～39年まで鳩間与人勤務は梅公氏7世大浜仁也・鳩間与人孫剛（童名：鶴兼、1814～39年卒）である。
※『梅公氏6世孫職小宗』家譜。
- ⑭1840～52年まで鳩間与人勤務者が不明。
- ⑮1853～68年まで勤務の梅公氏7世宮良仁也・鳩間与人孫昌（童名：鶴兼、1804～68年卒）が就いている。※『梅公氏5世孫重小宗』家譜。
- ⑯1869～73年まで勤務は不明。家譜から該当者に任不明で梅公氏7世石垣仁也・鳩間与人孫慎（童名：松金、1810～73年卒）が鳩間与人に就いている。※『梅公氏4世孫本小宗』家譜。
- ⑰1872～73年まで勤務は家譜から該当者に錦芳氏11世石垣仁也・石垣親雲上用能（童名：松、1841～1916年卒）が鳩間与人に就いている。鳩間与人後に1874年川平与人任、1882年与那国与人任、1883年真謝与人任、1888年真謝首里大屋子任、1892年石垣頭に就いている。※『錦芳氏6世用正小宗』家譜。
- ⑱1874～79年まで鳩間与人勤務に松茂氏10世大浜仁也・崎枝首里首里大屋子當行（童名：保久利、1835～1909年卒）が就いている。1880年川平与人任、1882年大川与人任、1887年与那国与人任、1890年平得与人任、1895年崎枝首里大屋子に任じられている。※『松茂氏8世當剛小宗』家譜。
- ⑲1880年任が不明であるが該当者に1883年鳩間与人勤務の山陽氏8世佐久真仁也・鳩間与人長建（童名：鶴千代、1814～86年卒）が就いている
※『山陽氏7世長顯小宗』家譜。「岩村通俊沖繩関係史料の明治十六（1883）年三月（略）鳩間与人佐久真長建（略）」が記載されている。
- ⑳1887年ころ鳩間与人任不明であるが該当者に家譜から憲章氏11世浦崎仁也・鳩間与人英要（童名：保久利、1835～1911年卒）がいる。屋号がハートンヤーと呼ばれている。※『憲章氏7世英任小宗』家譜に「11世英盈から英誠」と改名が記され、1847年カタカシラを結いに「糸数仁屋、謝花

琉球王国時代 西表島西部北海岸の鬚川村や
鳩間島・鳩間島の統治



仁屋」と仁屋（也）名が記されている。さらに浦崎仁也英要に改姓名して『憲章氏6世英董小宗』家へ嗣子（養子）になっている。

②1897年最後の鳩間与人が錦芳氏13世亀川仁也を改姓して宮良用賀（童名：樽金、1843年生れ～）が就いている

※『錦芳氏12世用議小宗』家譜。1877年登野城目差任後に鳩間与人に就いている。喜舎場永珣『新訂増補 八重山歴史』（国書刊行会／1975年）には（八）「一時給与金調（一時恩給）明治30（1897）年勤令第57号」に「勤務年数は34年2月・支給金額が503円812厘・職名は与人・氏名が宮良用賀」と記載されている。

現存する家譜から琉球王国時代の西表島西部の鬚川村や鳩間島・鳩間島の統治を推察した。1609年薩摩の琉球侵略まで西表島の西部一帯の琉球王国から明国との進貢物産の調達係に命じられ、大らかな主従関係だったと思われる。

1611年薩摩藩による検地・測量が行われ、それによって1629年石垣・宮良・大浜の3間切に25か村を分け、上納米粟などの取り立てが行われる。

西表島西部に鳩間村・西表村・慶田盛村が『八重山島年来記』に記載されている。



現存する家譜から錦芳氏6世西表首里大屋子用材（童名：真茂能、1595～1653年卒）が1626年西表目差、1630年初代の慶田城与人に就いている。また、同一世代の蔡林姓大宗成屋与人全備（童名・生寿不明）が初代の成屋与人に就いている。与人職名前の鬚川村、慶田盛村、成屋村からは生活用品の中国製の貿易陶磁の褐釉陶器（南蛮陶器＝スビガミ）、青磁などが多数採集出土している。

スク時代後期14世紀中葉からかなりの人々が一帯に住んでいたと思われる。1620年以後、明宇底獅子嘉殿の子孫たちの一人である5代の公孫姓大宗常頼や大史氏3世高起などが鬚川与人に就いて統治している。

西表島北海岸一帯が開墾され上納米、貢衣布（グイフ）などと物品税（ナーチャラ＝海人草、イーシィ＝つのまた、イリク＝なまこ）の取り立てが行われ、鬚川村の人々が鳩間島への頻繁な往来が行われた。しかし、過酷な2重3重の税や感染性マラリヤが蔓延し鳩間島の鳩間村へ吸収され、恵倫姓大宗鬚川与人稠廣の勤務1657～1702年頃までに廃村になっていたと思われる。

西表島の北海岸では黒島、竹富島、小浜島などの農民が飛び地耕作を行っている。1703年飛び地耕作を行っていた黒島の保里村から寄百姓して地頭持ちの鳩間与人を配置している。

現存する家譜から琉球王国時代の西表島西部の鬚川村や鳩間島・鳩間島の統治を推察した。1771年巨大な明和天津波により全人口（28,992人）のうち9,313人（32.1%）が死亡している。

琉球王国時代 西表島西部北海岸の鬚川村や
鳩間島・鳩間島の統治

またその後の感染性のマラリヤなどの蔓延により廃家や家系の断絶などがある。あるいは家譜の紛失や戦前、戦後の他地区への移住により1897年八重山蔵元廃庁までの鳩間与人の継承の完結はむつかしい。

しかし、家譜での見落とし、新しい家譜の発見などにより完結に近づくことができる。これからの鳩間与人・屋号マイハートンヤーについての共有の情報の提供をお願いします。鳩間与人についての積極的な追加修正を歓迎します。

